

# “対象と生徒の距離を近づける”力強いプロジェクトに必要な要素とは

(中学1年理科「生け雑草プロジェクト」を通して)

青翔開智中学校高等学校・教諭

松永 悟郎

## ●はじめに

2023年の4月から6月初旬にかけて、本校の中学1年生2クラス(53名)に理科の「植物の特徴と分類」の単元で、雑草を使っていけばなを行い、つくった作品を全員で書籍化するというプロジェクト型学習(Project Based Learning、以下PBL)、「生け雑草プロジェクト」を実施した。

ロン・バーカー(2023)は、力強いプロジェクトには

- ・「ほんもの」の研究
- ・アートのか
- ・モデル
- ・何度も草案をつくる
- ・批評
- ・作品を発表する
- ・アセスメント

の要素が必要だと述べている。

今回の実践をこの要素に整理し直して、「どんな瞬間に対象と生徒の距離が近づくのか」という問いを考えていくこととする。

## ●内容の目次

- 第一章 授業準備
- 第二章 実践
- 第三章 振り返り

# ○第一章 授業準備

## 「ほんもの」の研究①：生け雑草

『生け雑草』は小林さんが2016年4月から1年間、毎日身近な草花を採集して写真を撮り、Instagramに投稿していたものを書籍化したものである。学習指導要領（2017）では、1年生の生物分野における学びに向かう力、人間性等の目標を「生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。」と定められている。私はこの書籍を見て、「日々の小さな美しさに目を向けられるようになることが、自然環境の保全に寄与する態度の第一歩になる」と考え、小林さんが行っていることを生徒と経験して、その過程でどのような思考が生まれるかを言語化してもらう活動を行った。

プロジェクト開始時に、小林さんの作品を鑑賞してオンラインインタビューを実施した。インタビューでは、生け雑草を365日続けたことでの変化

（最初はただの緑色の土地だった場所でも、名前がわかると植物が目飛び込んでくるようになった）や、作品づくりのこだわり（写真は加工せずに自然光で撮る。器は家にあるものを使う）、お気に入りの作品の理由について話をしてもらった。

## 「ほんもの」の研究②：地域の方との協働設計

まず本物のいけばなにに出会う機会が必要だと考え、華道家元池坊の岡崎隆範さんに依頼し、いけばなにおける美しさの表現方法の講義と作品づくりの際の技術的なアドバイスをしてもらうことにした。

また昨年度に植物採集を行った際、私ではその場所の植物の多様さを伝えられなかった。そこで鳥取県立博物館の学芸員、清末幸久さんにフィールドワーク（以下FW）に同行してもらうことにした。

また、鳥取県は林業が盛んだが、こどもたちは「山」に生えているスギ・ヒノキを見分けられないことを知り、鳥取県東部森林組合の濱田洋輔さんにいけばなに使うスギとヒノキの端材をいただき、鳥取県林業試験場の桐林真人さんに、「私たちと裸子植物のつながり」をテーマに講義をしてもらい、裸子植物にも目を向けるきっかけをつくることにした。



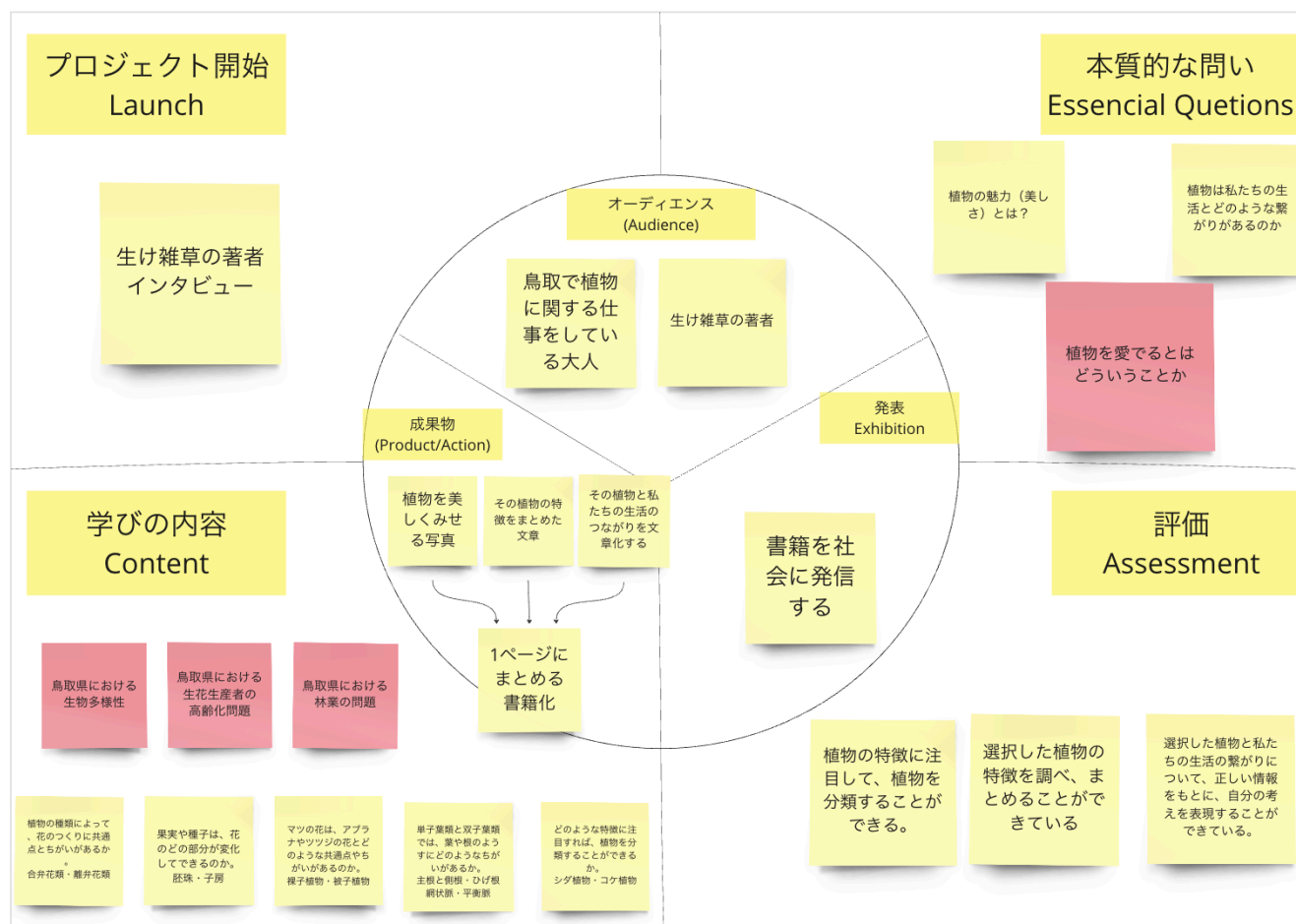
|                    |  |  |  |                 |  |  |
|--------------------|--|--|--|-----------------|--|--|
| <b>トクサ科</b>        |  |  |  | <b>アカネ科</b>     |  |  |
| スギナ                |  |  |  | ヤエムグラ           |  |  |
| <b>ヒガンバナ科</b>      |  |  |  | カワラマツバ          |  |  |
| ノビル                |  |  |  | <b>キョウチクトウ科</b> |  |  |
| <b>イネ科</b>         |  |  |  | ツルニチニチソウ        |  |  |
| ハルガヤ               |  |  |  | <b>オオバコ科</b>    |  |  |
| スズメノカタビラ           |  |  |  | ヘラオオバコ          |  |  |
| <b>キンボウゲ科</b>      |  |  |  | タチヌノフグリ         |  |  |
| トゲミノキツネノボタン        |  |  |  | オオイヌノフグリ        |  |  |
| <b>マメ科</b>         |  |  |  | <b>シソ科</b>      |  |  |
| コメツブツメクサ           |  |  |  | カキドオシ           |  |  |
| スズメノエンドウ           |  |  |  | オドリコソウ          |  |  |
| カラスノエンドウ (ヤハズエンドウ) |  |  |  | ヒメオドリコソウ        |  |  |
| <b>カタバミ科</b>       |  |  |  | <b>キク科</b>      |  |  |
| カタバミ               |  |  |  | ヨモギ             |  |  |
| <b>タデ科</b>         |  |  |  | ノボロギク           |  |  |
| スイバ                |  |  |  | セイヨウタンポポ        |  |  |
| <b>ナデシコ科</b>       |  |  |  | <b>スイカズラ科</b>   |  |  |
| オランダミミナグサ          |  |  |  | ノヂシャ            |  |  |
| コハコベ               |  |  |  |                 |  |  |
| ミドリハコベ             |  |  |  |                 |  |  |

(写真 1) 左上：本校で行った打ち合わせの様子

左下：清末先生との事前調査でわかった FW 場所に生息する植物の一覧

右：事前調査時に清末先生が作成した植物標本の写真

## プロジェクトデザインとプロジェクトチューニング



(写真2) 本プロジェクトのプロジェクト・ディスカッションパターン

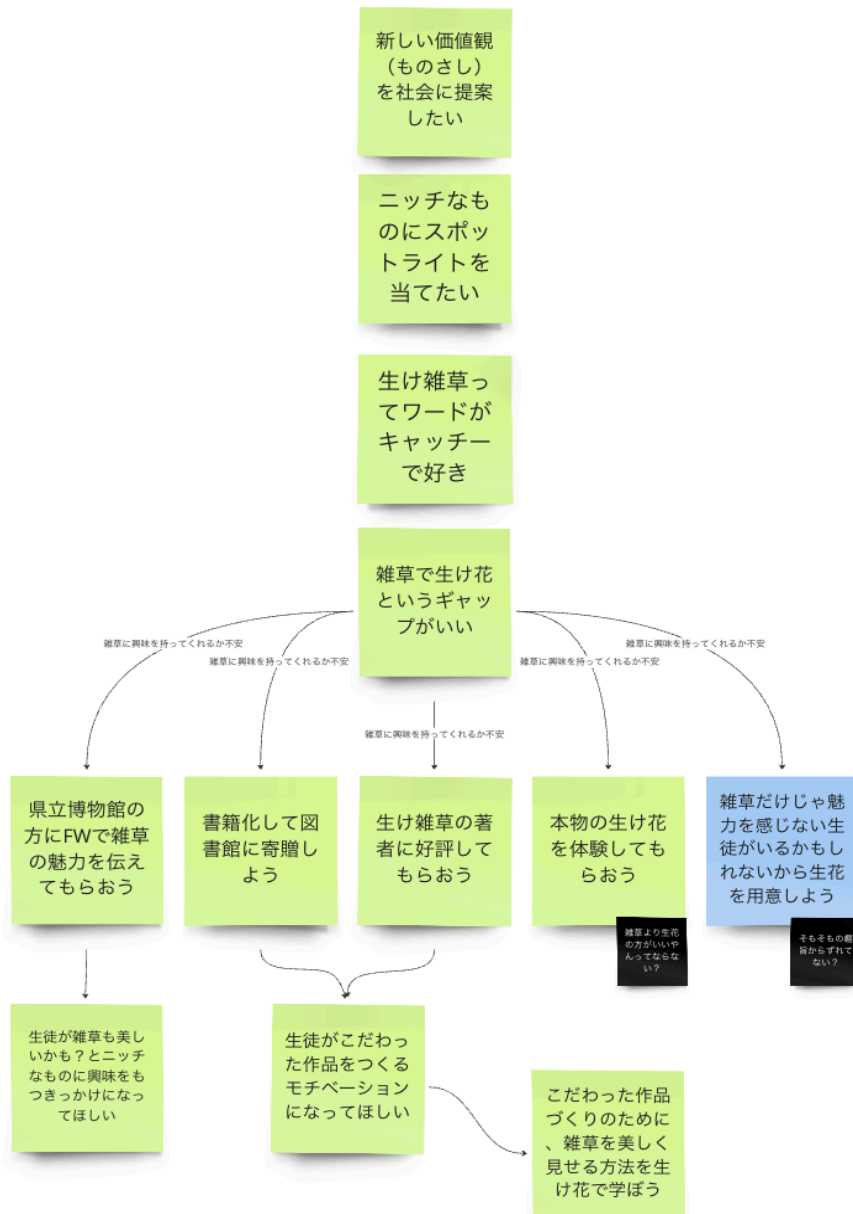
プロジェクトの大枠は、プロジェクト・ディスカッションパターン（藤原2020）をもとに作成した。計画段階で、「雑草で生徒のワクワク感を維持できるのか」と不安になった。そこで、『WORK THAT MATTERS（翻訳版）』のプロジェクトチューニングの手順で、知り合いの教育関係者と単元計画について対話する場を設けた。「生徒のワクワク感には、対象と自分との距離感が大切。どうしたらその植物との距離を近く感じることができるか」を話し合い、「食べられる野草など生活とのつながりがあるか」「植物の立ち姿に自分を投影できるか」などが上がった。また、このプロジェクトの本質的な問いは、植物学者牧野富太郎さんはどんな目線で植物を見ていたのだろう？という問いから、「植物を愛でるとはどのようなことか」にした。そして、この授業の表のテーマは、「雑草に目を向けることで、これまで見つけられなかった身近な小さな美しさに意識を向けられるようになること。美しさに気づくために、植物をよく観察して、植物を愛でる感覚を皆で共有



できるようになること」とし、裏のテーマとして、「ニッチなものにスポットライトを当てることで、新しい価値基準（ものさし）を社会に提案すること」とした。

ロン・バーカー（2023）は、「いい作品をつくり上げるその過程で自尊心が培われる。質の高い作品は変容をもたらす力を持っている。生徒に返却された提出物は、往々にしてゴミ箱行きになり、生徒自身や周囲の人々が誇らしく思うような、心に残る意味深い作品は稀です。」と述べている。そこで、新しい価値基準（ものさし）を社会に提案するために、生徒の作品を書籍化して、多くの人に見てもらえるような美しい作品をつくることを学習課題にした

プロジェクト企画時の自分思い



(写真 3) プロジェクトチューニングによって整理されていった思考

## ループリック

プロジェクトチューニングの内容から、選んだ植物との距離が近くなる瞬間は、自分の生活とのつながりを見つけた時だと考え、ループリックを以下のように設定した。また、ループリックを作成する際に本校の司書に相談し、植物の分類や植物と人間社会とのつながりについて調べられるような図書資料（別資料①生け雑草ブックリスト参照）を準備してもらった。

| タグ               | 観点（到達目標）                                 | A                                                                                                                                                        | B                                                                                                                        | C                                                                       |
|------------------|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 知識・概念<br>17      | 領域分野に関する知識・概念が形成されている<br>（作品で評価）         | 使用した植物の和名、分類（～植物の●●科）、構造上の特徴（根・茎・葉・花）を正しく書いている。<br>&<br>子孫を残すための戦略（花粉・胞子を運ぶためのしかけ・受粉させるためのしかけ・種子を運ぶためのしかけ）など+αの情報を書いている。                                 | 使用した植物の和名、分類（～植物の●●科）、構造上の特徴（根・茎・葉・花）を正しく書いている。                                                                          | 使用した植物の和名、分類（～植物の●●科）、構造上の特徴（根・茎・葉・花）を書いているが情報に誤りや不足がある。                |
| クリティカルシンキング<br>7 | 多角的・客観的な視点を持ち自らの判断を内省することができる<br>（作品で評価） | 使用した植物と人間社会（私たちの生活）とのつながりについて、<br>・書籍などからの情報<br>・自分自身の体験<br>をもとに自分の考えを書いている。                                                                             | 使用した植物と人間社会（私たちの生活）とのつながりについて、<br>・書籍などからの情報<br>をもとに自分の考えを書いている。                                                         | 使用した植物と人間社会（私たちの生活）とのつながりについて、<br>・書籍などからの情報<br>を書いている。                 |
| 表現<br>14         | 思考を視覚的に表現することができる<br>（レポートで評価）           | 「植物を愛でるとはということか」について、自分の作品を題材にして、以下の内容を説明できる。<br>【内容】<br>・自分の作品の誇りに思う部分<br>・活動前後で「植物を愛でるとはということか」という問いについて、自分の考えがどう変わったか<br>・その考えの変化は、つくる作品にどのような影響があったか | 「植物を愛でるとはということか」について、自分の作品を題材にして、以下の内容を説明できる。<br>【内容】<br>・自分の作品の誇りに思う部分<br>・活動前後で「植物を愛でるとはということか」という問いについて、自分の考えがどう変わったか | 「植物を愛でるとはということか」について、自分の作品を題材にして、以下の内容を説明できる。<br>【内容】<br>・自分の作品の誇りに思う部分 |

（写真 4）ループリック指標

---

## プロジェクト計画

プロジェクトは以下の計画で実施した。

|       | 主な活動内容                                      | ミニレッスン内容<br>授業冒頭10分の講義内容    | 力強いプロジェクトのための<br>要素  |
|-------|---------------------------------------------|-----------------------------|----------------------|
| 1.2   | 植物たちのフシギすぎる進化ABD 分担読み、資料作成                  |                             |                      |
| 3     | 植物たちのフシギすぎる進化ABD発表                          |                             |                      |
| 4     | プロジェクトの概要説明<br>生け雑草著者小林さんオンラインインタビュー        |                             | ・「ほんもの」の研究<br>・モデル   |
| 5.6   | 水辺の公園FW1→ネイチャージャーナリング<br>講師：鳥取県立博物館 清末先生    |                             | ・「ほんもの」の研究           |
| 7     | ネイチャージャーナリング                                |                             |                      |
| 8     | ネイチャージャーナリング                                |                             |                      |
| 9.10  | いけばな講義→生花を使っていけばな体験<br>講師：池坊 岡崎さん           |                             | ・「ほんもの」の研究<br>・アートの力 |
| 11    | いけた草花について調べる                                | 葉と花の特徴                      |                      |
| 12    | いけた草花について調べる                                | 桃と苺の花のつくりの違い<br>オオバコの種子の運び方 |                      |
| 13.14 | 水辺の公園FW2→生け雑草1<br>講師：池坊 岡崎さん                |                             | ・アートの力<br>・何度も草案をつくる |
| 15    | 植物調べ→作品づくり                                  |                             |                      |
| 16.17 | 水辺の公園FW3→生け雑草2（裸子植物・シダ植物も使って）<br>講師：池坊 岡崎さん | 裸子植物について                    | ・アートの力<br>・何度も草案をつくる |
| 18    | 「私たちと裸子植物のつながり」 講義→作品づくり<br>講師：鳥取森林試験場 桐林さん |                             |                      |
| 19    | 植物調べ→作品づくり                                  |                             |                      |
| 20.21 | 講評会（ループリック内容の確認）<br>知識確認                    | シダ・コケ植物について                 | ・批評<br>・アセスメント       |
| 22    | ABDの内容を再度確認                                 | 植物の分類について                   |                      |
| 23.24 | 水辺の公園FW4→生け雑草3（シダ植物も使って）<br>講師：池坊 岡崎さん      |                             | ・アートの力<br>・何度も草案をつくる |
| 25    | 植物調べ→作品づくり                                  |                             |                      |
| 26    | 植物調べ→作品づくり                                  |                             |                      |
| 27.28 | 作品完成→書籍化→自己評価                               |                             | ・作品を発表する             |

（写真 5）単元計画

## 生け雑草お試し実践

実践前に複数の生徒と生け雑草体験をしたが、「やる前まではワクワクしてたけど、茎が弱くて折れる。全然思うように刺さらないから楽しくなくなった」と言われた。そこで、生け雑草を行う際は岡崎さんの技術的な支援を受けられるようにした。

## ○第二章 実践

### アクティブブックダイアログ

雑草学者である稲垣先生の『植物たちのフシギすぎる進化』を使って、アクティブブックダイアログ（以下 ABD）を行った。

ABD は、

- 1：読む章を決める
- 2：自分のパートを読んで、読んだ箇所を B5 用紙 3～5 枚に要約する
- 3：要約した内容をリレー形式で発表する

という流れで実施した。

この本は、植物の分類を進化の過程をもとに説明しており、中学校 3 年間で扱う植物分野の全体像も把握することができる。今回は作品をつくる過程で、自然と植物の特徴や分類の仕方を学んでほしかったため、最初に単元の全体像と重要語句に触れてもらうために実施した。



（写真 6）ABD の授業風景

### FW→ネイチャージャーナリング

「何の変哲も無い、ちょっと荒れた、親水公園を宝の山に」をテーマに水辺の公園で FW を実施した。子どもたちは清末先生のガイドのもと、水辺から土手を上がっていくと、生息している植物が変化することに気づいた。その後、お気に入りの植物を選んで学校に戻り、ネイチャージャーナリング（ジョン・ミューア・ロウズ 2022）を実施した。

ネイチャージャーナリングは、

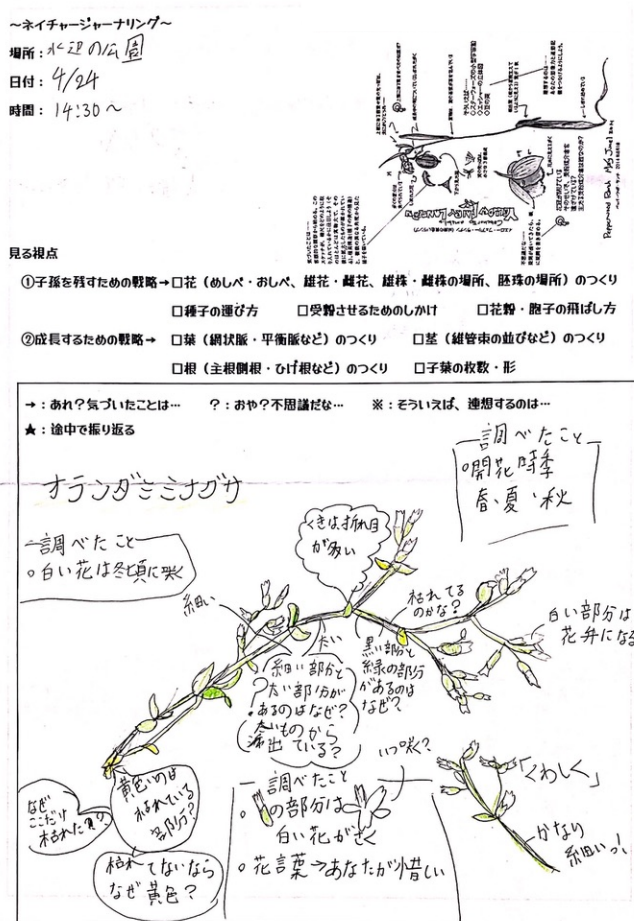


1：スケッチしながら3つの問い（「気づいたことは？」「疑問に思ったことは？」「連想することは？」）を考えて同時にメモする

2：その問いについて図鑑で調べる

という流れで行った。

ある生徒は土手に落ちていたクルミの実を見ながら「なぜ土手にクルミがあったんだろう？鳥が持ってきた？」と話していた。「じゃあ河川敷にクルミの木があったか探しにいこうか。そのためにクルミの木を図鑑で調べ」と伝え、放課後クルミの木探索を行った。クルミの木は実が落ちていたところから少し離れたところにあり、その下にはたくさんの実が落ちていた。次の時間はクルミの実を綺麗に割る方法を探究し、その後、中身を削ると油がでてくることに気づき、それが何かを調べながらスケッチを始めた。



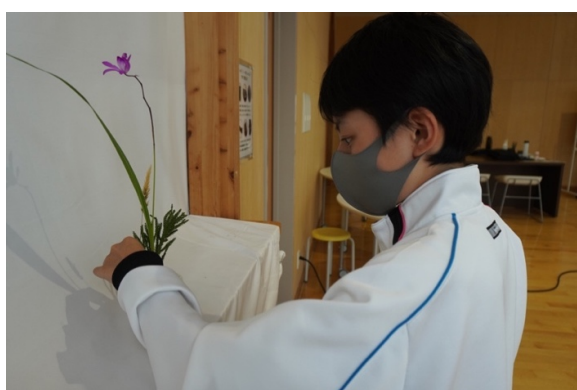
(写真7) 左上：ネイチャージャーナリングの様子

左下：清末先生の講義

右：生徒のネイチャージャーナリング

## アートの力：いけばなの講義と体験

生け雑草の前に、いけばなにおける美しさの表現方法の講義と生花を使ったいけばなを実施した。これは、私がいけばなをしたとき、何に意識を向けたらよいかわからず拘りきれなかった経験から、最初にいけばなではどのような部分に意識を向けたら良いのか知ってもらうことを目的とした。講義で話された「自然的表現（出生や景観）」と「意匠的表現（部分美）」は、学習指導要領（2017）の「植物の体の共通点と相違点」の学習内容である『身近な植物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解すること。また、その共通点や相違点に基づいて植物が分類できることを見いだして理解すること。』と深く関係している。講義後に自由に生けて、写真を撮った。この日は雑草ではなく、生花を使用したため、色鮮やかな美しさがあった。そこで授業終わりに、「この美しさは生花だからなのか。雑草でも雑草だからこそその美しさを表現ですことはできるのか？」という問いを投げかけ、生け雑草の取り組みにつなげた。



（写真 8）生花を使ったいけばな体験の様子



## 何度も草案をつくる・アセスメント：生け雑草

生け雑草は以下の流れで3回実施した。

1：FWで気に入った植物を採集する。二回目は裸子植物、三回目はシダ植物も用意した。

2：主役として見せたい植物の各部分を観察して拡大写真を撮り、図鑑等を使って、植物同定をする。

3：いけばなをして写真を撮る。

4：主役の植物の分類や社会とのつながりを調べる。

5：CANVAで作品を作る。

始める前は同じ流れを3回繰り返すことで生徒が飽きないか、という不安があった。しかし同じ場所にFWに行ったことで、「この前取ったものがない!」「前はこんな花なかった!」など季節による植物の変化に気づく生徒もいて、「前は派手な花を使ったから今回は質素な花を使う」「外来種だけ使う」など、これまでとは違う工夫をしようとする姿を見ることができた。また、提出された作品に対して「ここが素晴らしい」「もっとこうしてもらいたい」と、出版社的な立場で生徒にフィードバックを返すことができ、その内容を次の作品制作の参考にしてもらうことができた。これは同じ流れを複数回繰り返すからできたアセスメントの方法だった。

## 批評・モデル：講評会

2回目の生け雑草を終え、「書籍化をめざすのであれば、もう少し植物の情報を詳しく調べてもらいたい。その植物が映える撮り方を創意工夫してほしい。」と思い、急遽講評会を実施した。まず、小林さんの写真を鑑賞し、自分の作品の写真とはどこが違うかを考えてもらった。そして、工夫が見られた生徒の作品を共有し、作成者に工夫した部分を聞き、その作品のどの部分が素晴らしいかをペアで対話してもらった。最後に「生け雑草は写真におさめることではじめて作品になる。写真にしたときにその植物の美しさが表現できるように、もっと自由に表現の仕方を工夫してほしい」と伝えた。

その結果、3回目の生け雑草では、これまでと違い、白砂を下に引いた作品や日差しを利用した作品など、「その植物をどう美しくみせるか」に創意工夫をした作品が多くなった。

## 作品を発表する：書籍化

早く作品ができあがった生徒が CANVA で整理して書籍化を進めた。「これまでやってきたことも入れよう」という声から、ネイチャージャーナリングなど授業で作成した資料も追加して書籍（別資料②参照）が完成した。授業後、完成した作品は学校の電子図書館に所蔵してもらった。



（写真 9）生け雑草の授業の様子





(写真 10) 3 回目の生け雑草写真



# 実践！生け雑草

青翔開智中学校 1年生



## 人類と草の植物の出会い

①ペーニョン ②手作業機械 ③AIの開発  
④植物の活用 ⑤AIの開発  
⑥AIの開発  
⑦AIの開発  
⑧AIの開発  
⑨AIの開発  
⑩AIの開発

人類が米を食べる理由  
① 米は人間にとって重要な食料である。  
② 米は人間にとって重要な食料である。  
③ 米は人間にとって重要な食料である。  
④ 米は人間にとって重要な食料である。  
⑤ 米は人間にとって重要な食料である。  
⑥ 米は人間にとって重要な食料である。  
⑦ 米は人間にとって重要な食料である。  
⑧ 米は人間にとって重要な食料である。  
⑨ 米は人間にとって重要な食料である。  
⑩ 米は人間にとって重要な食料である。

## 第6話 本場に強い者が勝つのか？

① 本場に強い者が勝つのか？  
② 本場に強い者が勝つのか？  
③ 本場に強い者が勝つのか？  
④ 本場に強い者が勝つのか？  
⑤ 本場に強い者が勝つのか？  
⑥ 本場に強い者が勝つのか？  
⑦ 本場に強い者が勝つのか？  
⑧ 本場に強い者が勝つのか？  
⑨ 本場に強い者が勝つのか？  
⑩ 本場に強い者が勝つのか？

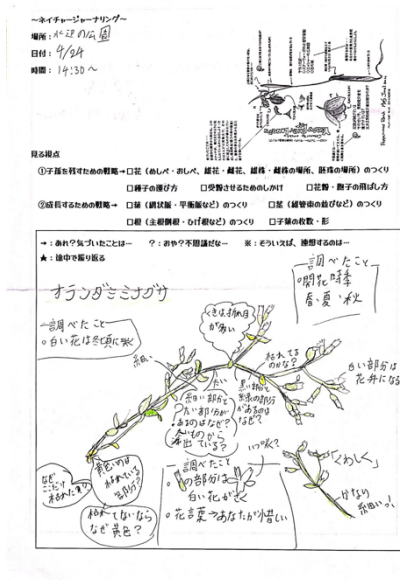
## 草食動物 VS 食料植物

① 草食動物 VS 食料植物  
② 草食動物 VS 食料植物  
③ 草食動物 VS 食料植物  
④ 草食動物 VS 食料植物  
⑤ 草食動物 VS 食料植物  
⑥ 草食動物 VS 食料植物  
⑦ 草食動物 VS 食料植物  
⑧ 草食動物 VS 食料植物  
⑨ 草食動物 VS 食料植物  
⑩ 草食動物 VS 食料植物

## 鳥取林業試験場の桐林さんの話をきいて

桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。

桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。  
桐林さん：鳥取林業試験場の桐林さん。



シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ



シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ



ヤブジラミ  
ヤブジラミ  
ヤブジラミ  
ヤブジラミ  
ヤブジラミ  
ヤブジラミ  
ヤブジラミ  
ヤブジラミ  
ヤブジラミ  
ヤブジラミ



五葉松  
五葉松  
五葉松  
五葉松  
五葉松  
五葉松  
五葉松  
五葉松  
五葉松  
五葉松



シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ



シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ  
シシガシラ



## ○第三章 振り返り

プロジェクト終了後、「活動前後で『植物を愛でるとはどういうことか』という問いについて、自分の考えがどう変わったか？その変化は、つくる作品にどのような影響があったか？」という質問で、思考の変化を言語化してもらった。3名の振り返りと作成した生け雑草の写真を合わせて紹介する。生徒の思考の深さと作品へのこだわりが伝わってくる。

| 振り返りの内容                                                                                                                                                                                                                                              | 提出された写真                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 「活動前は、植物を愛でるなんて難しいことだし自分にはできないと思っていたけど、活動後では、植物に向き合って、自分たち人間と同じくらいの価値観で見ることだと思いました。そして、植物の種類が沢山あることを認めて受け入れることだと思います。使う植物は全く違う種類をつかったり、似たような植物を使ったり試行錯誤したけど、やっぱり使う植物は全く違う植物(色や葉の大きさ、形が違う植物)同士がいいなって思いました。違う植物同士を使って、両方の個性を受け入れたから、いい作品ができたんだとおもいます。」 |   |
| 「活動前は今の姿(採集した時の姿)を愛でることができたらいって思ってたけど、活動後(今)は、採集した時の姿だけじゃなく、生きてきた自然と今までの姿(徐々に育っていく姿)も愛でれることだと感じた。最初は、綺麗な花を見つけることを意識してフィールドワークしてたけど、今は、あの花、ちょっと他の花と違うな…個性的だな…と思った花を主人公として生け雑草をすることができました。」                                                            |  |
| 「活動前はただ、綺麗な花に目を向けて生け花したりして、活用していくことなのかなと思っていたけれど、綺麗な花だけではなく、葉や、曲がった茎など、ありのままの姿も愛してあげることなのかなと思いました。また、その植物について深く知ってあげることなのではないかなと思いました。最初は「綺麗にしないと」と思っていたけれど、だんだん、その植物を活かした生け方をするようになりました。また、花瓶に生けるだけではなく、平たい入れ物や小さな入れ物を使いながら、様々な、方法で生けることができました。」    |  |

## ●おわりに

生徒に聞いた、「何のおかげでモチベーションが上がったか」の問いへの解答をロン・バーカー（2023）の力強いプロジェクトの要素に沿って分析したい。

“「ほんもの」の研究”は、「植物に携わる仕事をしている方の話をきいた時。自分がいいと思う植物を自ら見つけに行った時」。

“アート”の力”は、「豊富な選択肢（植物と器）から選べた時。自分なりの美しいを自由に表現できた時」。

“モデル”の要素は、「プロがつくる美しい作品（小林さんの Instagram）をたくさん見た時」。

“批評”は、「身近な人の美しい作品を鑑賞し、その人の想いを聞いた時」。

“作品を発表する”は、「作品を書籍にして世に出すと聞いた時」。

“アセスメント”・“何度も草案をつくる”は、「方法（いけかた）で困った時に近くに聞ける人がいた時。評価された後にもう一度やり直しができると知った時」

と分けることができた。ほかには、発見「植物をみていてそれまで気づかなかったところに気づいた時」や疑問「植物について調べたり観察していて、不思議に思うことがあった時」という解答もあった。

上記の力強いプロジェクトの要素によって、対象との距離が十分に近づくことで、「“自分の”発見、“自分の”疑問」に出会うのだろう。その出会いをより多くの生徒と経験できるように、今後も生徒と美しい作品をつくり上げて、生徒の自尊心を育める実践を考えていきたい。

（作成年月日） 令和 5 年 9 月 5 日

（名前） 松永 悟郎

## 参考資料

- ・ロン・バーカー 著、塚越悦子 翻訳、藤原さと 解説（2023）『子どもの誇りに灯をともしー誰もが探究して学びあうクラフトマンシップの文化をつくる』英治出版
- ・小林南水子 著（2017）『生け雑草』柏書房
- ・文部科学省（2017）中学校学習指導要領
- ・藤原さと 著（2020）『「探究」する学びをつくるー社会とつながるプロジェクト学習』平凡社
- ・森尾早百合／中庭廣子／岩田龍明／藤澤佑介 翻訳、三原菜央／岩田岩田龍明 編集『WORK THAT MATTERS～先生のためのプロジェクト・ベースド・ラーニングの手引き（翻訳版）』
- ・稲垣栄洋 著（2021）『植物たちのフシギすぎる進化ー木が草になってって本当?』筑摩書房
- ・ジョン・ミューア・ロウズ 著、杉本裕代／吉田新一郎 翻訳（2022）『見て・考えて・描く自然探究ノートーネイチャー・ジャーナリング』築地書館